

子供も失って

私は、暴走族への憧れから、16歳の時にメンバーになりました。

その頃から、暴走族仲間と一緒にシンナーを使用するようになり、17歳の頃に窃盗事件を起こして少年院に入るまで、月1回位のペースでシンナーを手に入れては使い続けていました。

少年院を出た後は、暴走族を脱けて会社に勤めるようになり、真面目に生活していたのですが、暴走族に居た時に知り合った人達との付き合いは続けていました。

28歳の頃、昔の暴走族仲間の家に遊びに行ったところ、そこに居た仲間の1人が、私の目の前で、ビニール袋入りの白い結晶を取り出して、その結晶をガラスで出来たパイプの中に入れ、ライターの火でパイプを炙りながら結晶が溶けて出た白い煙を吸い始めました。その白い結晶の正体は「覚せい剤」でした。

私もその覚せい剤の煙を吸わせてもらったところ、心臓が激しくドキドキしたかと思うと、元気が出て体が軽くなり、とてもいい気分になりました。

以後、その覚せい剤の快感が忘れられず、その快感で仕事の疲れを癒したいという考えから、覚せい剤を使っている友人や、その友人から紹介してもらった外国人の密売人などから、覚せい剤を入手しては使用するようになりました。

私が覚せい剤を使い始めてから2年ほど経って、私は妻と知り合い交際するようになったのですが、2人の仲が深まった頃のある日、私は妻に覚せい剤を使用していることを告白しました。すると妻も、昔はシンナーなどの薬物を使用していたことを私に打ち明けました。

私の頭の中には、妻となら一緒に覚せい剤を使用しても大丈夫だろうといった考えが浮かび、私は妻と一緒に覚せい剤を使うことを勧めました。こうして、2人で一緒に覚せい剤を使用するようになり、結婚した後も止めることはありませんでした。初めの頃は月1回位のペースで密売人から覚せい剤を買い、2人で使用していたのですが、日を追うごとにペースは上がっていき、そのうち月3回位は覚せい剤を買っては夫婦で使用するようになっていきました。

しかし、覚せい剤の影響からか、そのうち私は幻覚や妄想に悩まされるようになり、覚せい剤を使用していることを伏せて精神科の病院に通いました。

そんな私たち夫婦の間に子供ができ、妻は妊娠をきっかけに覚せい剤を一度は止めました。子供に覚せい剤の影響が出るかもしれないと思ったからです。しかし、私は父親になるという実感が持てず、相変わらず1人で覚せい剤を使い続けていました。そして無事子供が生まれると、また私達夫婦で覚せい剤を使い始め、育児による疲れを口実にして、より一層覚せい剤にのめりこんでいきました。そして、私達夫婦は、麻薬取締官に逮捕されたのです。

私達が逮捕されたことで子供は施設に預けられました。そして、私も妻も執行猶予の判決を受けて社会に戻ってきたのですが、私達が共に覚せい剤に溺れていたことを問題視されて、子供は施設に預けられたままになってしまいました。

覚せい剤を使用していた頃は思いもよらなかったのですが、当時、妻は子供を母乳を育てていたので、母乳を通じて子供に覚せい剤を与えていたのではないかと思うとゾッとしました。私達のあさはかな行動により、ひょっとしたら子供の将来に大きな影響が出るかもしれないと思うと、悔やんでもくやみきれません。でも、過ぎた時間は戻せません。皆さんもこんな私達のようにならないよう気をつけてください。

(30歳代 男性)